

## 嗅覚刺激による想起経験が 高齢者の認知機能および精神的健康に及ぼす影響に関する研究

Influences of Autobiographical Memory Cued by Odor on  
Cognitive Functions and Well-being for Elderly

山本 晃輔（YAMAMOTO Kohsuke）

超高齢社会への移行から、増加する高齢者における認知機能および精神的健康の低下が社会問題となっている。本研究組織では、これまで報告されてきた嗅覚刺激によって記憶が促進される認知モデルをさらに発展させ、嗅覚刺激による過去および未来事象の想起が高齢者の認知機能、精神的健康を改善する機序を解明し、それらの知見を高齢者の支援プログラムへと高めていくことが目的である。

今年度は大別して4件の研究を行った。研究1では、高齢者を対象に実験、調査を行い、嗅覚刺激から喚起させるノスタルジー感情の主観的評定、嗅覚同定能力検査、嗅覚イメージ能力尺度、嗅覚への主観的な気づきの程度に関する尺度、主観的幸福感尺度などの関係性を検討した。その結果、嗅覚への主観的な気づきの程度と主観的幸福感、嗅覚イメージ能力に有意な相関関係が示唆された。研究2では、高齢者を対象に、嗅覚同定能力検査、嗅覚イメージ能力尺度、認知機能検査を行った。その結果、嗅覚同定能力と嗅覚イメージ能力には有意な相関関係が確認されたが、一般的な認知機能と嗅覚同定能力、嗅覚イメージ能力には明確な相関関係が確認されなかった。研究3では、若年者と高齢者におけるノスタルジー感情を喚起させる嗅覚刺激について調査を行った。その結果、高齢者では「キンモクセイ」、「赤ちゃん」、若年者では「線香」、「畳」などを中心とするノスタルジー感情を喚起させる嗅覚刺激が選定された。研究4では、嗅覚の手がかりによる無意図的想起に焦点をあて、自伝的記憶のポジティブ効果について検討を行った。若年者と高齢者に日誌法を依頼し、分析した結果、若年者、高齢者ともにポジティブな記憶がネガティブな記憶よりも多く想起され、いわゆるポジティブ効果が確認された。世代差について検討すると、高齢者の方がよりその効果が顕著であった。これらの知見は次年度の学会で発表予定である。関連する研究発表も含め、今年度の学会発表件数は計8件であった。学術論文として計4編が審査の結果、採択された。

### 【主な研究成果】

山本晃輔（2018）味嗅覚の科学：人の受容体遺伝子から製品設計まで 朝倉書房  
（pp. 35-41）.

山本晃輔・杉山東子（2018）ユーザの感性と製品・サービスをむすぶ真意を聞き出すアンケート設計と開発・評価事例 サイエンス&テクノロジー（pp. 274-285）.

山本晃輔・猪股健太郎・須佐見憲史・綾部早穂（2018）日本語版嗅覚イメージ鮮明度質

問紙作成の試み パーソナリティ研究, 27, 87-89.

山本晃輔・小早川達 (2018) 嗅覚同定能力と嗅覚刺激による自伝的記憶における加齢の影響 日本心理学会第 82 回大会発表論文集.

山本晃輔 (2018) 嗅覚の手がかりによる無意図想起の特性に年齢が及ぼす影-OEAMQ を用いた検討- 日本認知心理学会第 16 回大会発表論文集.